

高度経済成長期を支えた 大規模住宅開発



▲出典：神奈川県住宅供給公社20周年記念誌「住みよい暮らしを創る」（昭和46年11月）

汐見台団地（横浜市磯子区）



▲出典：汐見台団地パンフレット（昭和42年6月）

重工業の急速な発展に伴う都市人口の急増と住宅不足を背景に、県住宅公社（現・神奈川県住宅供給公社）が昭和34（1959）年に事業着手しました。

約75haに約16,000人が暮らす職住近接型の大規模団地で、社宅、賃貸住宅、分譲住宅が混在する団地として計画されました。この計画には県も共同で参画し、無電柱化、丘陵地の住棟配置、学校や商業施設の併設など、生活機能を備えた総合的な街づくりが行われました。後のニュータウン開発の先行モデルとも言われています。



◀ YouTube 動画 「汐見台団地 記録映画」

「汐見台団地」の建設過程とその後の暮らしを記録した映像。

昭和36年頃の着工から昭和42年の完成式までの歴史と当時の住民の日常生活の様子を収めています。



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ